

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 23 日現在

機関番号：24402

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23320142

研究課題名(和文)近世～近代日本における遊廓社会の比較類型史的研究

研究課題名(英文)Comparative type history of Yukaku-Society at the time from Pre-modern to Modern Japan

研究代表者

佐賀 朝(SAGA, Ashita)

大阪市立大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：40319778

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,100,000円

研究成果の概要(和文)：本課題では、日本近世～近代における「遊廓社会」の形成・普及の歴史について、三都と中核とする列島各地や植民地の事例も視野に入れて、比較類型史論・都市社会＝空間構造論の方法を用いて共同研究を実施した。その最大の成果は、『シリーズ遊廓社会』全2巻(吉川弘文館)であり、本課題の代表者・分担者・連携者・協力者21名による論稿を掲載することができた。

列島各地で個別の現地調査や、調査と一体の研究会を開催し、遊廓研究のネットワーク化を図るとともに、府県別の遊廓・遊所の沿革と史料情報を内容とするデータベースWEBサイトを構築し、今後の遊廓・遊所研究の発展につながる基盤を構築した点も特筆すべき成果である。

研究成果の概要(英文)：The present work is a history of the formation and spread of "Yukaku Society" (The Social Structure of Licensed Pleasure Quarters) in early modern and modern Japan. It considers conditions in the Japanese archipelago - centered on the three metropolises of Edo/Tokyo, Kyoto, and Osaka - as well as those in Japan's overseas colonies. This collaborative research project was carried out using methodologies of comparative history and urban society as spatial structure. The most important result of this research was the Series on Yukaku Society, Vol.1&2(Yoshikawakobunkan).

This research project has also resulted in historical surveys conducted at specific locations throughout the Japanese archipelago, academic conferences based on these surveys, and the creation of a network of scholars of Yukaku history. Finally, the editors have created an online database devoted to the historical trajectory of Yukaku throughout Japan, as well as provided information on document holdings and locations.

研究分野：日本近現代史

キーワード：日本史 ジェンダー 遊廓 比較類型 都市社会史 性売買

1. 研究開始当初の背景

(1) 近世「遊廓社会」史研究

遊廓の歴史的研究は、従来、文化史や狭義の「女性史」の視点から行われてきた。1990年代以降進められた、近世都市社会史研究における一連の研究が、こうした状況を一新した。塚田孝は、遊女屋仲間と町制の関係、遊女屋の所有と経営、遊女屋仲間に従属的に編成される多様な営業者、遊女・遊女屋をめぐるネットワーク(女術など)、新地開発など多様な局面から遊廓の社会史を解明した。2006年に吉田伸之が提起した「遊廓社会」論は、こうした近世遊廓史研究の到達点と言える。吉田は、巨大都市江戸において、遊廓をめぐる形成された社会的諸関係は、新吉原の五町遊女屋仲間、茶屋仲間、男女芸者を統括する見番という三者のヘゲモニー主体を頂点とし、これに、新吉原を中核とした相互流動のもとにある小磁界＝「擬似遊廓」としての岡場所と四宿、また各遊所に従属的に編成される多様な諸商人・諸職人などをくわえた諸要素によって構成されたとし、これら遊廓社会の基盤には、遊女を奴隷的に搾取する「性の身分的商品化」があったと指摘している。

(2) 幕末維新期の遊廓研究

一方、2000年代には、幕末維新时期を中心とした遊廓史研究も進んだ。佐賀朝(研究代表者)や人見佐知子、吉田ゆり子、神田由築は、近世都市社会史研究もふまえて幕末維新时期の居留地付き遊廓や芸娼妓解放令、府県の遊廓統制などを分析した。そこでは、各地の居留地付き遊廓の誕生や、既存遊廓の近代化過程における変容が解明されている。これらの研究では、遊廓の社会＝空間構造や地域支配の問題、居留地や周辺社会との関係、府県による遊廓統制の問題などが分析され、各地の近代公娼制の成立過程が近世後期以来の展開をふまえて明らかにされている。

以上の二つの流れを集約し、さらに分析対象を、近世の三都以外の地方にまで広げて、事例発掘と相互比較を試みたのが、2008年の都市史研究会シンポジウム「遊廓社会」であった。同シンポは、2007年から研究代表者らが開始した「遊廓社会研究会」の活動成果もふまえ、幕末～近代の地方都市における遊廓(遊所)を対象に、事例の発掘と分析、相互比較を行い、19～20世紀における遊廓社会の構造と変容に迫ろうとしたものであり、本研究の直接的前提をなすものである。

(3) 近現代の遊廓と人身売買問題研究

他方、日本近現代史の分野では、いわゆる「従軍慰安婦」問題をにらみつつ、帝国主義や軍隊との関係にも留意した、日本の性売買問題の特質に関する研究が、やはり1990年

代末以降、進められた。小野沢あかねは、20世紀前半における日本の性売買問題を、国内の娼娼運動との関係、国際的人身売買問題との関係の両面から分析し、その戦時下における歴史的到達点と限界を明らかにした。さらに「従軍慰安婦」問題研究では2000年代以降、その前提として植民地朝鮮半島の遊廓に関する研究も進んでいる。金富子は、植民地期・群山の遊廓について、戦後への展開も視野に入れて検討した。日本帝国主義が朝鮮半島に「遊廓」を持ち込んだことはよく知られているが、その具体的な実態は十分には検討されてこなかった。金らの研究は、日本の近世社会が産み落とした「遊廓社会」から、日本軍による性暴力である「従軍慰安婦」に至る歴史的系譜の空白を埋める意味を持つ。

近世～近代の遊廓史研究は、以上の列島を越えた範囲での問題も考慮する必要がある。実は近世においても、長崎を通じた対外交流で遊女は小さくない位置を占めた。松井洋子は、幕末期の居留地付き遊廓の歴史的前提でもある丸山遊廓と出島オランダ商館や唐人屋敷との関係について、日蘭双方の新史料を用いて分析しており、上記の歴史的系譜をつなぎ、豊富化する意味を持つ。

以上から、近世～近代の遊廓史研究は、近世日本において「成熟」を遂げ、列島諸地域に普及した「遊廓社会」のシステムや構造が、幕末維新时期における居留地付き遊廓の誕生、検閲制度や芸娼妓解放令による「近代化」、あるいは北海道の「開拓地遊廓」などを経て、日本帝国主義のアジア侵略にともなって植民地公娼制へと展開し、最終的には日本軍による戦時性暴力である「従軍慰安婦」問題へも行き着く、という歴史的な系譜を一つの問題連関として念頭に置き、各段階における歴史的变化と、空間的な普及・拡大の特質を分析することが重要な課題であると言える。本研究は、以上の課題に都市社会史と比較類型論の立場から迫ったものである。

2. 研究の目的

本研究は、近世～近代日本の遊廓について、列島諸地域の多様な事例の発掘と具体的分析を通して、都市社会史の観点から比較類型化し、その歴史的特質を解明することを目的とし、その際、以下の5つを課題とした。

- (1) 「遊廓社会」論をふまえ、遊女(娼妓)・芸者(芸妓)や遊女屋(貸座敷業者)とその仲間(集団)などの社会的存在形態を具体的に解明すること(社会史的視点)
- (2) 遊廓社会が形成される空間の構造分析にも取り組み、遊廓を包含する都市(都市的な場)の特質も視野に入れて分析を進めること(社会＝空間構造論)
- (3) 列島諸地域の多様な遊廓・遊所事例を掘

り起こし、その比較類型化を行うこと（比較類型論）

- (4) 近世～近代の長期にわたる「遊廓社会」の変容過程とその特質を解明すること（通時代的分析）
- (5) 列島外との国際的關係にも分析をくわえ、19～20世紀日本の公娼制度が抱えた歴史的な特質と問題性を、世界史的な文脈にも位置づけること（世界史的視点）

3. 研究の方法

本研究では、近世「遊廓社会」から近代公娼制、植民地公娼制を経て「従軍慰安婦」へという歴史的系譜理解を一つの前提に、列島諸地域の事例発掘と史料調査を進め、データベース化を進める段階、研究者の相互交流も含めた事例相互の比較研究を進める段階、一次史料の発掘、事例研究の蓄積を通し、比較類型論の発展をふまえて「遊廓社会」史としての歴史的展開像へと総合化していく段階、の三つの研究プロセスに区分し、取り組むこととした。そのため、以下の4つの研究活動を柱に据え、共同研究を進めた。

(1) 遊廓・遊所データベースの構築

列島諸地域の事例発掘と史料調査を反映させた都道府県別の遊廓・遊所研究データベースの構築作業を、研究分担者・連携研究者・研究協力者らの分担によって進めた。当初、計画した全都道府県の詳細データベース構築は実現できなかったが、主要10道府県の詳細データの構築を成し遂げ、恒常的に調査とデータの追加を行いうる基本的な枠組みを完成させることができた。

(2) 現地調査・研究会の実施

データベース構築と連動した遊廓事例発掘と現地の研究者・史料所蔵機関との研究交流を進めるため、現地調査・研究会を各年度1回ずつ開催することとした。金沢・長崎・札幌・韓国ソウルでそれぞれ開催し、文書等の史料調査・収集で大きな成果を上げただけでなく、現地のフィールドワークにより各地における遊廓の社会＝空間構造に関する地理空間・建築・景観などの面からのデータも得られた。なお、研究代表者や分担者などによる個別の現地調査も少なからず実施することができた。

(3) 部会と総括研究会の実施

研究活動の構造としては、西日本・東日本にそれぞれ研究拠点をもうけ、西日本部会・東日本部会を年に各1～2回開催した。ここでデータベース構築の進捗状況の確認、個別研究報告などを重ねた。また、各年度の終了にあたり、年度総括研究会を東京・大阪で開催した。これらの研究会では、(4)に述べる研究論文集の成果につながる研究報告が多数行われ

ただけでなく、遊廓社会論の方法をめぐる議論も活発に行われ、研究雑誌上での論争に発展するなど、当該分野の研究をリードする議論を展開することができた。

(4) 研究論文集の編集・刊行

吉川弘文館から研究論文集『シリーズ遊廓社会』1・2を刊行し、近世～近現代の列島諸地域（近代の植民地も含む）の遊廓事例を発掘し、比較類型史的に検討するとともに、近世遊廓の社会＝空間構造、近世～近代移行期の居留地付き遊廓や芸娼妓解放令の問題、近代における芸妓地の展開、軍都と遊廓、国際的人身売買問題など、多様な切り口から遊廓社会の構造と実態、その「普及」のありようを解明した。

本シリーズは、研究史上も類例のない画期的なものであり、多くの書評等で取り上げられている。また、遊廓社会研究会においても本シリーズの内部の検討会や外部の書評会を行い、さらなる遊廓社会史研究の課題を整理した。

4. 研究成果

(1) 史料調査

[2011年度]

- 2011年9月19～21日 石川県立歴史博物館、金沢市立玉川図書館、串茶屋民俗資料館

[2012年度]

- 2012年9月3～6日 長崎歴史文化博物館、フィールドワーク
- 2012年12月7～10日 佐賀県立図書館、フィールドワーク
- 2012年12月25日 東京都公文書館「順立帳 明治二年」所収遊廓関係文書

[2013年度]

- 2013年7月8日 国立公文書館 遊廓・遊所研究データベース構築のための「府県史料」調査
- 2013年9月16～19日
 - ・函館市中央図書館 箱館居留地遊廓関係史料収集、フィールドワーク
 - ・北海道立文書館 開拓地遊廓関係史料収集、フィールドワーク
- 2014年3月19日 山口県立文書館 遊廓関係布達史料収集

[2014年度]

- 2015年3月8～10日 韓国ソウル市内旧遊廓地フィールドワーク（旧花園町遊廓ほか）

(2) 遊廓社会研究会

[2011年度]

- 2011年7月30日 大阪市立大学 遊廓社会研究会史料調査事前打ち合わせ 東京都公文書館・国立公文書館所蔵遊廓関係史料について
- 2011年9月19日 石川県立歴史博物館

第 20 回遊廓社会研究会 現地研究会
本康宏史「軍都金沢と遊廓」
人見佐知子「19 世紀金沢の茶屋町」
●2012 年 1 月 13 日 大阪市立大学文化交流
センター 小セミナー室
遊廓社会研究会 遊廓データベース小研究会
山田佳美「滋賀県の遊廓の概要と遊廓関係布
令・布達類について」
佐藤敦子「奈良県の遊廓の概要と遊廓デー
タのサンプルについて」
●2012 年 1 月 28 日 大阪市立大学法学部棟
6F 第 2 会議室
第 21 回遊廓社会研究会 (2011 年度遊廓科研
第 2 回西日本部会)
屋久健二「近世大坂天満宮と西側仲間」
●2012 年 3 月 14 日 東京大学大学院人文社
会系研究科法文 2 号館第三会議室
第 22 回遊廓社会研究会 (2011 年度遊廓科研
年度総括研究会)
佐賀朝「遊廓科研の遊廓データベースにつ
いて—奈良県・滋賀県のサンプルを素材に—」

[2012 年度]

●2012 年 9 月 3 日 長崎歴史文化博物館
第 23 回遊廓社会研究会 現地研究会 (2012
年度遊廓科研第 1 回西日本部会)
「長崎の遊廓をめぐる」
報告: 松井洋子、本馬貞夫(長崎文化振興課)
加藤貴行(花月史編さん担当)
●2012 年度 9 月 20 日 東京大学本郷キャン
パス工学部 1 号館 3F 建築史作業室
第 24 回遊廓社会研究会 (2012 年度遊廓科研
第 1 回東日本部会)
吉元加奈美「近世大坂における遊所とその統
制—町触を中心に—」
●2012 年 12 月 23 日 大阪市立大学文学部会
議室
第 25 回遊廓社会研究会 (2012 年度遊廓科研
東西合同部会)
「遊廓論集「シリーズ遊廓社会」序章の構想
報告と討論」
報告者: 吉田伸之、佐賀朝
●2013 年 3 月 25 日 東京大学本郷キャン
パス工学部 1 号館 3F 建築学専攻 作業室
第 26 回遊廓社会研究会 (2012 年度遊廓科研
年度総括研究会)
小野沢あかね「公娼制度廃止問題の国際的位
置—1920~30 年代—」
横山百合子「芸娼妓解放令と遊女—債務と養
女—」

[2013 年度]

●2013 年 4 月 16 日 大阪市立大学文学部 246
教室
第 27 回遊廓社会研究会 (2013 年度遊廓科研
西日本部会分科会 1)
佐賀朝「居留地付き遊廓の社会構造—東京築
地・新嶋原遊廓を素材に—」
●2013 年 6 月 18 日 大阪市立大学文学部 246
教室

第 28 回遊廓社会研究会 (2013 年度遊廓科西
日本部会分科会 2)
人見佐知子「芸娼妓解放令の歴史的意義」
●2013 年 9 月 19 日 札幌国際ビル貸会議室
第 29 回遊廓社会研究会 現地研究会
佐賀朝「「遊廓社会」研究会の課題と北海道
の遊廓」
阿部保志「近世~近代北海道における「遊廓」
「遊女屋」の変遷 内国植民地における売
春業の特質」
●2013 年 10 月 14 日 部落問題研究所
第 30 回遊廓社会研究会 (2013 年度遊廓科研
第 1 回西日本部会)
横山百合子「遊廓と近世社会」
人見佐知子「公娼制度の近代転換期」
●2014 年 3 月 1 日 立教大学
第 31 回遊廓社会研究会 (2013 年度遊廓科研
総括研究会)
書評会「吉田・佐賀編『シリーズ遊廓社会 1・
2』(吉川弘文館、2013 年)をめぐる」
報告者: 曾根ひろみ、吉元加奈美

[2014 年度]

●2014 年 10 月 27 日 部落問題研究所
第 32 回遊廓社会研究会 (2014 年度遊廓科研
総括研究会)
「近世~近代遊廓社会史研究の到達点と課
題—『シリーズ遊廓社会』1・2 巻を素材に
考える—」
松井洋子「近世遊廓社会史の方法をめく
つて」
吉元加奈美「近世大坂の茶屋に関する考察」
佐賀朝「近代遊廓社会史研究の到達点と課
題」
●2014 年 3 月 8 日 韓国ソウル淑明女子大学
第 33 回遊廓社会研究会 現地研究会
「日韓における遊廓・公娼制度研究の現在」
佐賀朝「日本近世~近代遊廓社会史研究の現
状と課題」
吉田ゆり子「幕末期開港場における外国人向
け遊廓」
朴貞愛「韓国の近代性売買に関する研究動
向」
朴ジョンミ「韓国の基地村性売買政策の歴史
社会学 1953~1995 年」

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に
は下線)

[雑誌論文] (計 66 件)

佐賀朝「近代遊廓社会史研究の課題と展望
『シリーズ遊廓社会 2』を素材に考える」
『部落問題研究』211 号、査読有、2015、71-88
人見佐知子「セクシュアリティの変容と明
治維新」『講座明治維新 第 9 巻 明治維新と
女性』、査読無、2015、178-204
小野沢あかね「日本人「慰安婦」の徴集と
近代公娼制度」『日本人「慰安婦」 愛国心
と人身売買と』、査読無、2015、12-31

松井洋子「近世遊廓社会の方法をめぐって」『部落問題研究』211号、査読有、2015、4-13

吉元加奈美「近世大坂の茶屋に関する考察 堀江地域を素材に」『部落問題研究』211号、査読有、2015、14-70

横山百合子「幕末維新期の社会と性売買の変容」『講座明治維新 第9巻 明治維新と女性』、査読無、2015、145-177

吉田伸之「遊廓社会論の射程」『歴史学研究』926号、査読有、2014、25-38

人見佐知子「公娼制度の近代転換期」『部落問題研究』209号、査読有、2014、55-76

横山百合子「新吉原における「遊廓社会」と遊女の歴史的な性格」『部落問題研究』209号、査読有、2014、16-54

小野沢あかね「芸妓・娼妓・酌婦から見た戦時体制」『慰安婦』問題を/から考える』、査読無、2014、89-130

松井洋子「貿易都市長崎から見た近世日本の「売春社会」」『歴史学研究』926号、査読有、2014、14-25

人見佐知子「金沢の茶屋町と都市社会」、都市史学会『都市研究：歴史・社会・文化』9号（韓国）、査読無、2013、33-88

小野沢あかね「米軍統治下沖縄における性産業と女性たち 1960～70年代コザ市」、『年報日本現代史』18号、査読無、2013、69-107

松井洋子「“The Debt-Servitude of Prostitutes in Japan during the Edo Period, 1600-1868”」、Gwyn Campbell, Alessando Stanziani (eds.) *Bonded Labour and Debt in the Indian Ocean World*, London, Pickering & Chatto、査読無、2013、173-185

金富子「日本の市民社会と「慰安婦」問題解決運動」、『歴史評論』761号、査読有、2013、24-40

武林弘恵「宿場における売買春存立の一考察 奥州郡山宿の判元見届人・見廻り分析から」、『歴史』120号、査読有、2013、30-55

佐賀朝「居留地付き遊廓の社会構造 東京築地・新嶋原遊廓を素材に」、『部落問題研究』203号、査読有、2013、2-47

吉田伸之「北品川の寺社門前」、『身分的周縁と地域社会』、査読有、2013、257-296

武林弘恵「近世後期の都市振興政策と飯盛女 奥州二本松藩の事例」、『人文学報』475号、査読有、2013、1-32

武林弘恵「近世売春婦における洗濯女の位置 常州平潟湊を中心に」、『総合女性史研究』30号、査読有、2013、25-49

21 屋久健二「近世大坂天満宮の境内商人と西側茶屋仲間」、『市大日本史』15号、査読有、2012、96-115

22 松田法子「別府温泉における芸娼妓の空間と社会 旧浜脇村の貸座敷と娼妓を中心に」、『国際的・都市史的観点から見た都市再生論に関する研究』（日本建築史学会）査読無、2012、93-100

23 横山百合子「19世紀都市社会における地域ヘゲモニーの再編 女髪結・遊女の生存と解放をめぐって」、『歴史学研究』885号、査読有、2011、12-21

〔学会発表〕(計 39件)

佐賀朝「日本近世～近代遊廓社会史研究の現状と課題」、遊廓社会研究会韓国現地セミナー「日韓における遊廓・公娼制度研究の現在」、2015年3月8日、淑明女子大学(韓国)

吉田ゆり子「幕末期開港場における外国人向け遊廓」、遊廓社会研究会韓国現地セミナー「日韓における遊廓・公娼制度研究の現在」、2015年3月8日、淑明女子大学(韓国)

金富子「exual Slavery versus Necessary Evil: ‘Comfort Women’ Hate Speech under the Abe Administration」、1st Global Conference “SEXUALITY, OPPRESSION AND HUMAN RIGHTS”、2014年7月31日、オックスフォード大学(イギリス)

横山百合子「幕末維新期の社会と性売買の変容—吉原細見・放火・芸娼妓解放令」、総合女性史学会2014年度第1回例会、2014年6月1日、文京区男女平等センター(東京都・文京区)

佐賀朝「The Social History of Japan’s Brothel Districts: Reflections on the Current State of Research in Japan, with Particular Reference to the Tokugawa-Meiji Transition (日本遊廓社会史研究の到達点と課題 近世～近代移行期を中心に)」、イエール大学東アジア研究委員会特別シンポ「Embodied Histories: New Perspectives on Prostitution and Disease in Modern Japan」、2014年3月26日、イエール大学(アメリカ)

小野沢あかね「芸妓・娼妓・酌婦から見た戦時体制—日本人「慰安婦」問題とはなにか—」、歴史学研究会(招待講演)2013年12月15日、明治大学(東京都・千代田区)

人見佐知子「公娼制度の近代転換期」、第51回部落問題研究者集会全国集会・歴史分科会(招待講演)2013年10月27日、同志社女子大学(京都府・京都市)

横山百合子「首都東京の近代化と対外関係 芸娼妓解放令に着目して」、ソウル市立大学ソウル学研究所創立20周年記念国際シンポジウム、2013年5月23日、ソウル市立大学(韓国)

吉田伸之「幕末期、江戸の周縁と民衆世界」、歴史科学協議会大会、2012年11月18日、早稲田大学(東京都・新宿区)

横山百合子「遊廓と近世社会」、第51回部落問題研究者集会全国集会・歴史分科会、2013年10月27日、同志社女子大学(京都府・京都市)

横山百合子「“The Release of Act of Yu-jo as an Emancipation of Slave in the middle of the 19th century in Japan”、日本学

術振興会科学研究費補助金基盤研究(S)「ユーラシアの近代と新しい世界史叙述」国際ワークショップSugar and Slavery towards a New World History、2012年11月17日、東京大学東洋文化研究所(東京都・文京区)

金富子「『慰安婦』問題に対する日本の法的責任と脱植民地主義」、ソウル大学校女性研究所主催定例研究会、2012年9月6日、ソウル大学校(韓国)

吉田伸之「伝統都市・江戸と近代」、ソウル市立大学シンポジウム「東アジア各国首都の近代の変容」、2012年6月14日、ソウル市立大学(韓国)

人見佐知子「芸娼妓解放令」の公布と近代公娼制度への道」、2012年度第42回明治維新史学会大会、2012年6月10日、慶應義塾大学(東京都・港区)

金富子「東アジアの戦時性暴力における真実と正義」、国際シンポジウム「東アジア真実、正義、平和のための市民社会の対応(Response from the Civil Society for Truth, Justice and Peace in East Asia)」、2011年5月27・28日、ソウル大学(韓国)

横山百合子「19世紀都市社会における地域ヘゲモニーの再編—女髪結・遊女の生存と解放をめぐって—」、歴史学研究会大会・全体会「近世・近代転換期における国家・地域社会関係の再検討—女性の経験という視点から—」、2011年5月21日、青山学院大学(東京都・渋谷区)

〔図書〕(計 22 件)

人見佐知子、日本経済評論社、『近代公娼制度の社会史的研究』、2015、218

小野沢あかね他、現代書館、『日本人「慰安婦」—愛国心と人身売買と』、2015、265

佐賀朝・吉田伸之編著、吉川弘文館、『シリーズ遊廓社会 2 近世から近代へ』、2014、336

佐賀朝・吉田伸之編著、吉川弘文館、『シリーズ遊廓社会 1 三都と地方都市』、2013、364

〔その他〕

ホームページ等

「遊廓・遊所研究データベース」

<http://yukakustudy.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐賀 朝(SAGA, Ashita)

大阪市立大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：40319778

(2) 研究分担者

塚田 孝(TSUKADA, Takashi)

大阪市立大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：60126125

吉田 伸之(YOSHIDA, Nobuyuki)

東京大学・人文社会系研究科・名誉教授
研究者番号：40092374

人見 佐知子(HITOMI, Sachiko)

岐阜大学・地域科学部・助教

研究者番号：00457029

神田 由築(KANDA, Yutsuki)

お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・教授

研究者番号：60320925

小野沢 あかね(ONozAWA, Akane)

立教大学・文学部・教授

研究者番号：00276700

松井 洋子(Matsui, Yoko)

東京大学・史料編纂所・教授

研究者番号：00181686

吉田 ゆり子(YOSHIDA, Yuriko)

東京外国語大学・総合国際学研究院・教授

研究者番号：50196888

金 富子(KIM, Puja)

東京外国語大学・総合国際学研究院・教授

研究者番号：40558102

(3) 連携研究者

浅野 秀剛(ASANO, Shuugou)

公益財団法人大和文華館・館長

研究者番号：70511137

伊藤 毅(ITO, Takeshi)

東京大学・大学院工学系研究科・教授

研究者番号：20168355

米谷 博(KOMETANI, Hiroshi)

千葉県教育委員会

杉森 哲也(SUGIMORI, Tetsuya)

放送大学・教養学部・教授

研究者番号：20226468

初田 香成(HATSUDA, Kosei)

東京大学・大学院工学系研究科・助教

研究者番号：70545780

松田 法子(MTSUDA, Noriko)

京都府立大学・生命環境科学研究科(系)・講師

研究者番号：00621749

松本 良太(MATUMOTO, Ryouta)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：10209661

本康 宏史(MOTOYASU, Hiroshi)

金沢星陵大学・経済学部・教授

横山 百合子(YOKOYAMA, Yuriko)

国立歴史民俗博物館・研究部歴史研究系・教授

研究者番号：20458657